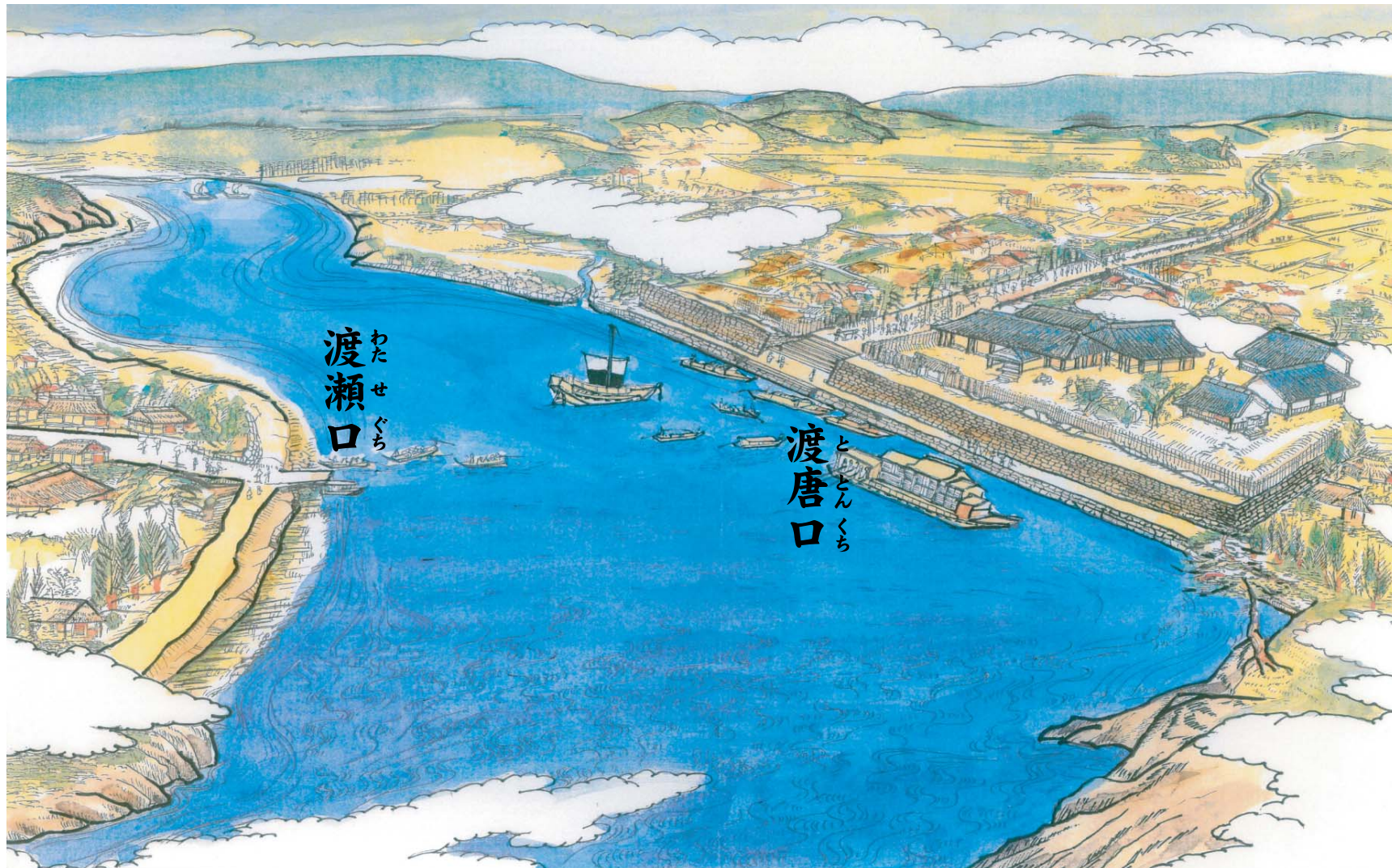


# 薩摩街道保存会



# 薩摩街道渡唐口

(想像図)

江戸時代、<sup>さんきんこうたい</sup>参勤交代のときに、<sup>さつまはんしゅいかずいこう</sup>薩摩藩主以下随行の一行が宿泊した場所を御飯屋とよびました。  
薩摩川内市には<sup>むこうだ</sup>向田御飯屋と<sup>にしがた</sup>西方御飯屋がありました。

向田御飯屋で一泊した一行は御飯屋馬場の川内川岸の<sup>ととんくち</sup>渡唐口から<sup>わたせぐち</sup>渡瀬口に川舟で渡り、<sup>こくら</sup>陸路小倉を目指しました。小倉から船で<sup>おおさか</sup>大坂(現在の大阪)に行き、そこから<sup>えど</sup>東海道線沿いに江戸に向かいました。

なお、薩摩藩の参勤交代には陸路のほかに、<sup>きょうとまり</sup>渡唐口から川舟で川内川河口の京泊に下り、そこで<sup>ぐみぎき</sup>対岸の久見崎軍港で用意した<sup>ごぎぶね</sup>御座船に乗り換えて<sup>ながさき</sup>長崎・<sup>げんかいなだ</sup>玄海灘・<sup>せとないかい</sup>瀬戸内海を経て大坂まで行き、そこから江戸へ向かう海路もありました。